

# 摩周湖を渡る風

作詞・作曲／谷藤万喜子 編曲／本田優一郎

1. あの夏 君と出かけた摩周の 澄み渡る 青さよ  
ささやかで大切な約束 未来へ託す 夏疾風

秋の日 午後の木もれびの道を ふざけながら 二人 歩いたね  
愛しい 君の柔らかな髪 宙に躍らす つむじ風

ここに いるよ 摩周のブルーは 君の 帰りを いつでも待ってる  
風が 描く 僕らの故郷 青いさざ波 そよ風の軌跡

風よ 吹けよ 季節を駆け抜けて 過去も 未来も 自由に旅する

風よ 強く 遥か大空へ 愛を 運んで 僕らの伝書鳩になる

(ブリッジ)

2. 冬の夜 君はひとり湖畔で 頬の 流星 数えた  
手をつなぎ ぬくもりを探せば 白く舞い立つ 風花

春の日 旅立つことに決めて 君は そっと 微笑む  
カバンを はみ出した思い出 背中を押すのは 雪解風

風よ 吹けよ 季節を駆け抜けて 過去も 未来も 自由に旅する

風よ 強く 遥か大空へ 愛を 運んで 僕らの伝書鳩になれ

(間奏)

風よ 吹けよ 季節を駆け抜けて 過去も 未来も 自由に旅する

風よ 強く 遥か大空へ 愛を 伝えて 今は離れても  
きっとまた ここで 会えるから

## 「摩周湖を渡る風」について

この作品は弟子屈町公民館開館50周年を記念し  
2016年9月7日に開催されたホラネロコンサートで初演されました。

歌詞の内容は町民有志の方によるアンケートをもとに作られました。

その中には摩周湖でプロポーズした方のエピソードがありました。

「家族が出来てからも時折訪れる大好きな場所、それが摩周湖です」と書かれていました。

一年に四季があるように人生にはいくつかの節目があります。

力強い一歩を踏み出す門出のときに

摩周湖を渡る風が背中を押して、応援してくれますように。

四季折々の風が私たちの頬を撫でながら

大切な人にメッセージを伝えてくれますように。

この曲にはそんな願いが込められています。

どんな街にも人々の思い出に残るような風景が一つはあると思います。

あなたの大好きな風景、大切な人を思い描いて歌ってみてください。

ホラネロ 谷藤万喜子